

# 第3章 金ヶ崎周辺整備の考え方と方向性

## 3-1 金ヶ崎周辺整備の考え方

### (1) 市民の願いである居心地の良い空間づくり

#### ア) 平成24年(2012年)を契機とした市民への周知

平成24年(2012年)は、敦賀ー長浜間鉄道開通130周年、敦賀ーウラジオストク定期航路開設110周年、欧亜国際連絡列車運行100周年に当たる年であり、鉄道と港の歴史を市民皆で振り返り、未来へとつなげる格好のタイミングです。

記念事業などのイベントをきっかけにして、より多くの市民に金ヶ崎周辺の歴史や港が持つ特有の“のどかさ”や“異国情緒”などの魅力を体感していただき、日常的に金ヶ崎周辺に足を運ぶ市民の増加につなげます。

#### イ) 市民意向の反映(市民シンポジウムのアンケート結果から)

市民シンポジウムに併せたアンケート調査結果(資料編:資料7参照)では、回答者の93%の方が、敦賀市にとって金ヶ崎周辺の資源や歴史を活かした活性化が重要であると回答され、また、金ヶ崎周辺のまちづくりについて、特に実現すべき事柄としては、飲食機能の導入と回答される方が最も多く、次いで赤レンガ倉庫の活用、修復、耐震化と金ヶ崎緑地の充実が同数でした。

市民が親しめる憩いの場とするためにも、また、金ヶ崎周辺のまちづくりに市民の積極的な参画を促進するためにも、市民の意向を十分に反映しながら整備を進めるとともに、積極的な情報発信に取り組みます。

#### ウ) 後世にも守り伝えていく持続的なまちづくり

市民が金ヶ崎周辺で豊かに時間を過ごす機会が増え、市民の力で金ヶ崎周辺をさらに快適な空間にしていくことにより、やがて、遠方からより多くの観光客を呼び込むことにつながります。今も価値を失っていない赤レンガ倉庫のように、後世にも大切にされる質の高いまちづくりを目指し、時代によって変化する要請に応えながら、じっくりと持続的に取り組みます。

### (2) 恵まれた地域資源の活用

#### ア) 赤レンガ倉庫などの既存の資源の活用

金ヶ崎周辺には、鉄道と港の歴史を今に伝える資源として「赤レンガ倉庫」、「ランプ小屋」、「休止中の線路」などが残されています。

これらの資源は、地域の発展の歴史を伝える建造物としてまちづくりに活用されるべきものですが、現在、これらは十分に活用されているとは言えない状態です。今後、これらの資源を適切に保全し、積極的に活用することが重要です。

#### イ) 「人道の港」にまつわる数々の物語の活用

「鉄道」と「港」の歴史を振り返る時、欠かすことのできないエピソードとしてポーランド孤児やユダヤ人難民を受け入れた「人道の港」の物語があります。先人達が示した博愛精神を伝え受け継いで

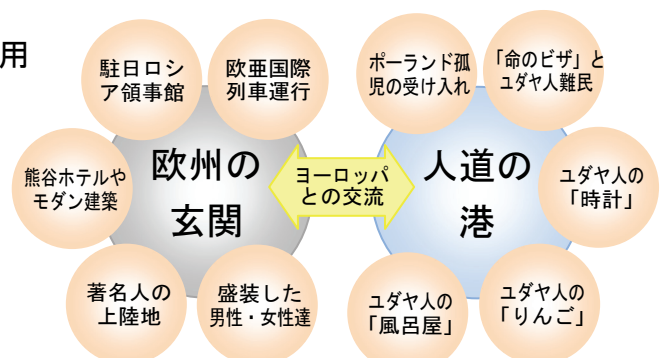


図 金ヶ崎周辺での「ものがたり」

いくためにも、この誇らしい物語をまちづくりに活かすことが重要です。

#### ウ) 海や山などの自然、中世の歴史資源等の活用

金ヶ崎周辺は、天然の良港敦賀湾に面しており、海辺に立てば、穏やかでのどかな雰囲気を感じることができます。また、北側には緑豊かな天筒山があり、桜の名所金崎宮や金ヶ崎城跡などの中世時代を中心とした歴史資源を遊歩道で巡ることができます。

これらの資源について、鉄道と港に関するまちづくり資源と相互に結びつけ活用することが重要です。

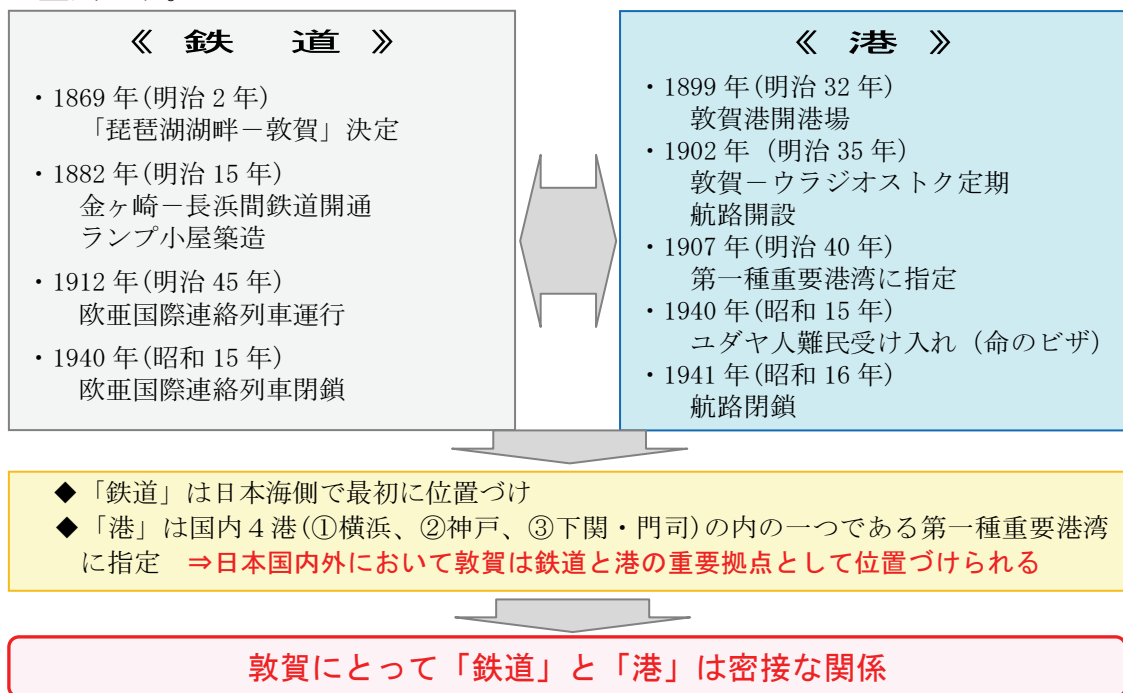


写真：金ヶ崎緑地ポートウォーク

#### (3) テーマは「鉄道」と「港」により発展した明治後期～昭和初期頃の時代

敦賀の発展の歴史は、「鉄道」と「港」を抜きにして語ることはできません。鉄道と港により敦賀は世界とつながり、多くの人やモノが行き交いました。特に明治35年の敦賀ーウラジオストク定期航路開設と明治45年の欧亜国際連絡列車の運行開始によって、敦賀は欧州に向けたアジアの玄関口となり、発展することとなりました。

明治後期～昭和初期こそが、金ヶ崎周辺が最も賑わい、敦賀の近代発展に決定的な役割を果たした時代であり、金ヶ崎周辺整備に際してこの時代を強く意識することが重要です。



図「鉄道」と「港」の歴史(明治以降)

#### (4) 民間活力の導入による賑わい創出促進

明治後期～昭和初期頃の金ヶ崎周辺の雰囲気を将来にわたって伝え継ぐためには、現在残されている資源の保全、活用だけでなく往時のモダンな街並みを体感できるようにすることが考えられます。

また、飲食機能や物販機能の導入も憩いや交流を促進する上で重要な要素となります。これらは、民間事業者の活力や経営ノウハウの導入により実現を図るべきものであり、民間事業者が参入しやすい環境づくりが重要となります。

## ～敦賀ノスタルジアム～

金ヶ崎周辺には、敦賀市の最も輝かしい時代の遺構やエピソードがあることから、未来に向けて市民が誇りを持って歴史をつないでいくため、先人が残した資源の保全や復元、エピソードをモチーフとしたまちづくりを進めます。

### ノスタルジアム

ノスタルジー…明治後期～昭和初期の最も輝かしい時代の敦賀港の雰囲気を感じ取ることができ、市民の郷土への愛着、誇りを醸成したり、市民や観光客が異国情緒を味わうことができる空間

単に過去を懐かしむだけでなく、現代に残る貴重な資源を未来に引き継ぐことを感じ取れる空間

ミュージアム…港と鉄道に関する歴史を中心に多様な資源がある金ヶ崎周辺全体を博物館に見立て、後世に史実を正しく伝え、市民や観光客の知的好奇心を満たすことができる空間



- 「アジアとヨーロッパを結ぶ港」として活気にあふれ、また「人道の港」として博愛精神にあふれていた、明治後期～昭和初期の敦賀港と鉄道の歴史を後世に残し、広く市民や観光客に伝える場とします。
- 特に「人道の港 敦賀」として、当時ポーランド孤児やユダヤ人難民の救済に向けて善意の手を差し伸べた市民の精神を受け継ぐべく、「おもてなしの心」で観光客を温かく迎えます。

### 3-3 金ヶ崎周辺整備の方向性

金ヶ崎周辺にある居心地の良い空間構成の要素からなるゾーンを相互に結び、金ヶ崎周辺全体の魅力と回遊性を高めます。

#### ■方向性1：ゾーニング

全体コンセプトを具現化し、金ヶ崎周辺整備の核となる場所や資源を併せて大きく2つのゾーニングを設定します。

##### ●金ヶ崎周辺の最も輝かしい時代、そして人道の港敦賀を象徴する場所

歴史のロマンや後世に誇るべき博愛の精神を感じ、伝え継ぐのに最もふさわしい場所

##### 古き良き時代を感じるゾーン

【かつて鉄道棧橋であった区域  
-プラットフォーム~乗降船場】

##### ●明治後期~昭和初期にかけての建築物や遺構で現存しているもの

まちの移り変わりを見続けてきた建物等の雰囲気  
を保全しながら、歴史を伝え継ぐ施設として活用

##### 遺構から歴史を学び知るゾーン

【赤レンガ倉庫、ランプ小屋、  
線路等】

#### ■方向性2：大通りと散歩道によるつながり

##### (1) 開放的な大通り

都市計画道路築港線、敦賀駅港線は世界とつながる敦賀港への主要なアクセス道路であるとともに氣比神宮や舟溜り周辺と連絡するメインストリートであることから、港まちを感じさせる開放的な雰囲気や花や緑で彩られた景観を形成することが重要です。

##### (2) 散歩道(小径や歩道)

###### 【近代化遺産を結ぶルート】

敦賀市の近代化を支えたレンガ建造物である赤レンガ倉庫、ランプ小屋、金ヶ崎隧道が金ヶ崎周辺内の歩いて回れる場所にあります。これらを結ぶ歩行ルートは、歩きやすく分かりやすい演出で近代化遺産の回遊を誘導する役割を担います。

###### 【花と緑の散歩道】

都市計画道路築港線、敦賀駅港線には広い幅員の歩道と街路樹が整備されており、花と緑の充実や沿道の公共施設を活用したもてなしの空間づくりが重要です。また、金ヶ崎緑地内には、散策ルートとして大通りの歩道から連続する緑で彩られたゆっくりと歩ける散歩径が必要です。加えて、都市計画道路敦賀駅港線及び金ヶ崎松原公園線は、桜並木が整備されており、桜の名所金崎宮へ至るルートとなっています。

###### 【地形の特性を活かした遊歩道】(ボードウォーク、遊歩道)

金ヶ崎緑地から舟溜り地区にかけての敦賀湾に面した空間は、海辺特有ののどかさ、開放感、港特有の異国情緒を感じることができる快適な散歩道です。また敦賀湾に突き出た天筒山の遊歩道は、近代化遺産を結ぶルートや桜並木などと金崎宮、鷗ヶ崎広場などを連絡し、高台から港まちの眺望を楽しむことができる散歩道です。

###### 【近代化遺産そのものを活かした歩行空間】

金ヶ崎周辺と敦賀市の近代化を支えた鉄道の根幹である線路は、現在、休止中であり、古き良き時代を感じながら歩くことができる回遊空間となります。



## ■方向性3：溜り場、街角

### 【近代化遺産】

赤レンガ倉庫やランプ小屋、貨物線路、金ヶ崎隧道などの近代化遺産は、独特の雰囲気を持っており、人々が近代化の歴史に触れたり、交流できる場とします。

### 【歴史を感じる資源】

金ヶ崎周辺には、近代だけでなく中世時代や江戸時代の歴史資源など多様な歴史的な資源があり、人々が敦賀の歴史のロマンを感じたり、交流できる場とします。

### 【公共施設】

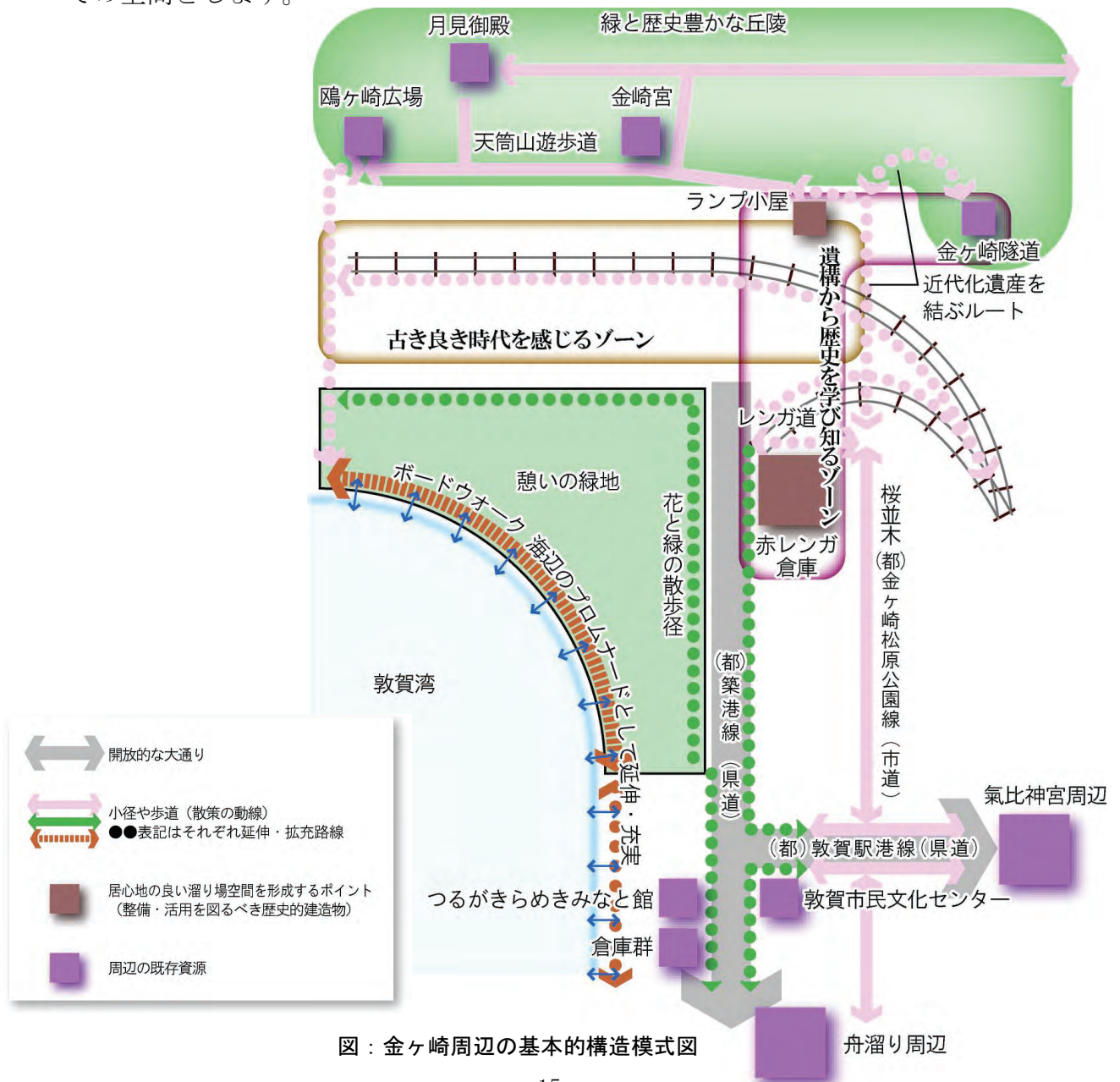
つるがきらめきみなと館、敦賀市民文化センターなどの施設は歩道のある街路に面しており、敷地内のオープンスペースを活用してもてなしを演出する場とします。

## ■方向性4：オープンスペース

### 【憩いの緑地（金ヶ崎緑地）】

金ヶ崎緑地は、敦賀湾と歴史的な遺構の中間に位置するオープンスペースです。

子どもからお年寄りまで誰もが居心地良く時間を過ごすことができる溜り場としての空間とします。



図：金ヶ崎周辺の基本的構造模式図

